

NPO法人北海道歩くスキー協会

令和4年度前期・後期

令和4年6月19日～R. 5年4月29日予定



令和4年度 後期集会

- 1, 日時：令和4年11月20日（日）10:30～12:00
- 2, 場所：札幌市民活動プラザ星園 2階会議室
- 3, 参加人員： 19名
- 4, 集会内容：

①理事長挨拶

②令和4年度後期事業計画について

*令和4年度後期事業計画について

*令和4年度後期事業計画の運営について
各運営長が発表

③その他

*令和4年度歩くスキー行事予定表について

*正会員と一般会員の現状について

*令和4年度助成金・寄付金・広告収入について

*令和4年度後期事業の出欠表について

*その他：事務局長から

◆今年度もコロナ禍のため懇親会は中止にしました。



受付係：新型コロナウイルス影響？参加者が19名



事務局長の司会で定刻に開催されました



丸山理事長挨拶



参加者の皆さん①



参加者の皆さん②



後期事業計画について・・・津久井執行委員長

令和4年度後期事業計画

令和4年度 後期事業計画

令和4年10月25日現在
(敬称略)

後期 番号	(11月～6月) 開 催 日	事 業 名	主 務 者	備 考
1	11月20日(日)	後期総会	丸 山 理事受	正会員 10:30～12:00 市民活動プラザ星園2階大会議室
2	12月03日(土)	環境保護講座「人為的気候変動を抑制するための自然エネルギー利用」	池 内	市民活動プラザ星園2階中会議室 10:00～12:00
3	1月07日(火)	令和4年度初めての歩くスキー”滝を見に行こう”	津久井	滝野公園「滝野公園区渓流ゾーン」 滝野管理センター 6回実施予定
	1月14日(土)			
	1月21日(金)			
	1月28日(土)			
	2月04日(土)			
4	2月03日(金)	北海少年院	丸 山	千歳 午後1時～3時まで
	2月10日(金)			
	2月17日(金)			
	2月24日(金)			
5	2月05日(日)	第43回札幌国際スキーマラソン大会	登 吉	白雲山、札幌市 札幌スキー連盟
6	2月05日(日)	第44回石狩民歩くスキー＆かんじきウォーキングの集い	田 原	石狩市体育協会
7	2月12日(日)	第10回スノーデュアスロン北海道2023	佐 藤	滝野公園、花サイクルクラブ
8	2月23日(木祝)	第48回道民・札幌市民歩くスキーの集い兼第9回 クオスカントノースキー記録会	山 本 (副)中村	滝野公園、滝野管理センター
9	2月26日(日)	野幌森林公園スノーハイキング	清 野	野幌森林公園
10	3月29日(土祝)	新川桜並木ウォーキング	丸 山	新川遊



後期事業各担当運営長の説明



各運営長説明を
聴く参加者



定刻の時間に終了致しました。今年も新型コロナウイルスの為懇親会中止になりました。

《令和4年度環境保護講座》

- 1、日時 : **令和4年12月3日** (日) 午前10時～12時
- 2、場所 : 市民活動プラザ星園2階 会議室
- 3、参加人員 : **20名**
- 4、タイトル・講師 :

【人為的気候変動を抑止するための自然エネルギー利用】

●講師: 所属: 北海道大学大学院工学研究院助教

NPO法人北海道地域・自治体間問題研究所

札幌市環境保全アドバイザー

山形定 先生

5、内容 :

- 当協会池内事務局長から山形先生の経歴等の紹介があり、配付されたイラスト入りの資料に基づいて、スライドで詳しい説明がありました。
今回の講座は、環境問題を次の3項目に区分し具体的事例を挙げられました。

①地球のしくみ

太陽から届いたエネルギーと同量のエネルギーが、赤外線形で地球から宇宙空間に放出される。その結果、地球は一定の温度を維持している。

②化石燃料使用の問題大気汚染と気候変動(地球温暖化)

主な化石燃料である石炭や石油は主成分である炭素と水素を燃やすと二酸化炭素と水ができる。二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく赤外線を吸収し、地表に向かって再放出するため地表温度を上昇させる。

③気候変動対策としての自然エネルギーとその課題

気候変動に対する日本の施策は、二酸化炭素を出さない原子力発電の稼働率を上げることが含まれているが、放射性廃棄物の処分方法が解決しない中での稼働は将来世代への負の遺産である。進むべき方向性は、太陽光発電を中心とした自然エネルギーを利用することが社会全体で化石燃料の利用を減らすことになる。

●環境問題が世界的に関心が高くなっている中で、先月エジプトで開かれた国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)においても、世界全体で産業革命以来の気温上昇を1.5度に抑えるべきとの激しい議論がされました。また、会議では先進国と発展途上国の意見対立が表面化しましたが、「**温室効果ガスの排出削減加速**」・「**再生可能エネルギー導入を加速すべきとの認識を共有する**」などで合意されています。

●今回の講演では、太陽光発電を中心とした自然エネルギー利用拡大を進めるにあたり、北海道の先住民族であるアイヌ民族の自然への考え方や生活様式が大いに参考になることを知り、大変興味深くかつ考えさせられました。また、何気ない日々の生活においても、常に環境問題を意識することが大切であると改めて痛感しました。

●次年度も予定しております。多数のご参加をお待ちしております。

* 協会の理念の一つに……恵まれた自然に親しみ,

環境を守り, その破壊を防ぐように技術面でなくスポーツのマナーや自然保護の理念を復旧する。

* すなわち暖冬異変に伴い降雪が少ないとスキーが出来ない。

そのような願いを込めて環境保護講座を実施しております。



受付係……募集定員20名で満席でした……



講師：挨拶する山形定先生と司会池内事務局長

自然エネルギー利用

私たちは便利・快適な生活を送るために多くのエネルギーを使っています。灯油やガソリンなどの化石燃料を使うと二酸化炭素が出て、豪雨や熱波などをもたらす気候変動の原因となります。化石燃料の代わりに自然エネルギーを利用することは、このような人為的な気候変動を回避し、「持続可能な社会」に向かう第一歩です。

- I 公害（大気汚染）
- II 地球環境問題（地球温暖化）



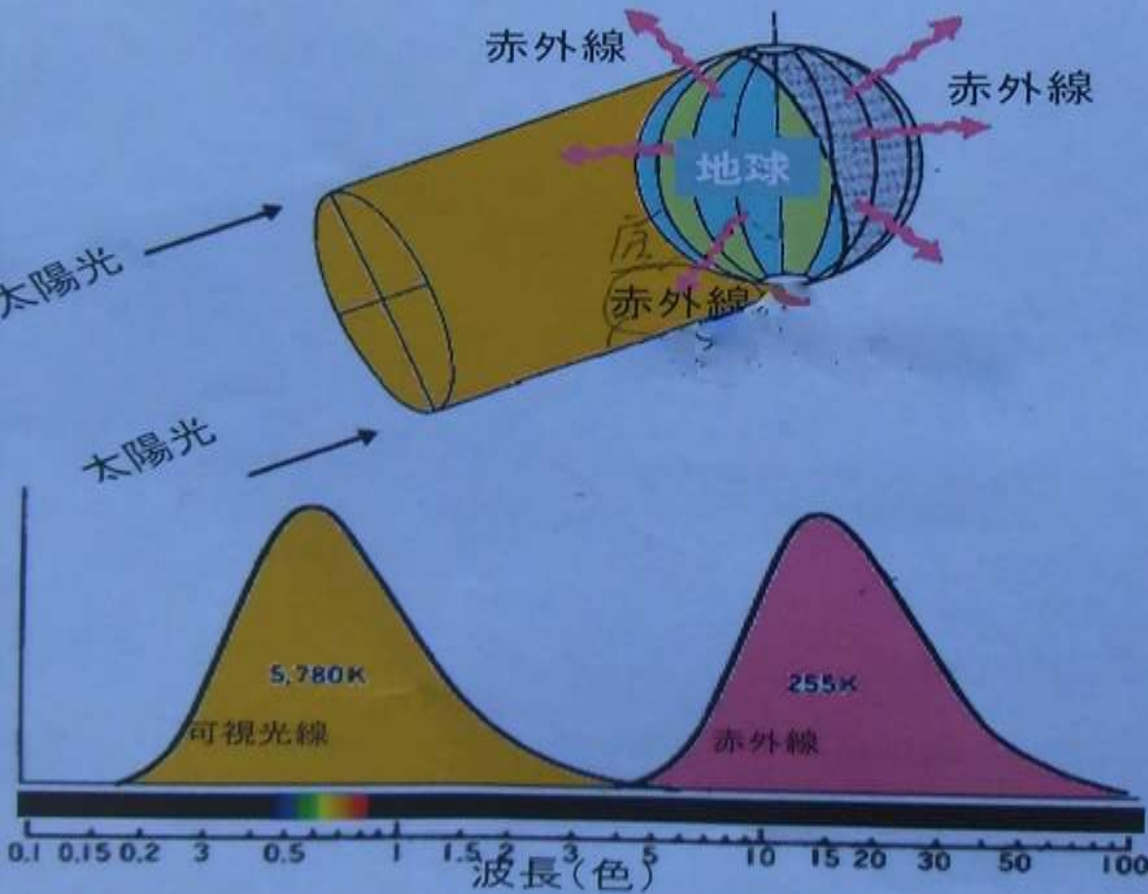
昭和36年当時の
スモックの街並みや
公害大気汚染



2022.12.03 参心大第一授業
人為的気候変動を抑止するため
の自然エネルギー利用
私たちは便利・快適な生活を送るために多くのエネルギーを使っています。灯油やガソリンなどの化石燃料を使うと二酸化炭素が出て、豪雨や熱波などをもたらす気候変動の原因となります。化石燃料の代わりに自然エネルギーを利用することは、このような人為的な気候変動を回避し、「持続可能な社会」に向かう第一歩です。
I 公害（大気汚染）
II 地球環境問題（地球温暖化）

地球のしくみ そのⅠ

太陽から光エネルギーを受け、宇宙に赤外線を放出



- お鍋は火にかけてアツアツ
- 周りに熱が逃げ一定温度に
- 鍋にとってのコンロが、地球にとっての太陽に該当
- 地球からの放熱は赤外線による

太陽から届いたエネルギーと同量のエネルギーが、赤外線の形で地球から宇宙空間に放出される。
その結果、地球は一定の温度を維持している。

「地球のしくみ」の中での、かつての動力

人力



畜力



水力



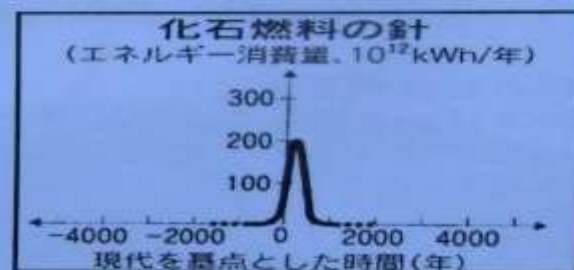
風力



「安房の揚水風車について」

産業革命後、エネルギー資源の主役となった石炭

- ・ 化石とは大昔の生物が死んだ後、現代にまでその遺骸が残ったもの
- ・ 化石燃料とは大昔に太陽光エネルギーでつくられたもの
- ・ 石炭や石油のような化石燃料は過去の生物遺骸で、限りある枯渇性燃料
- ・ 燃焼排ガスに SO_2 , NO_x , CO_2 が含まれる。

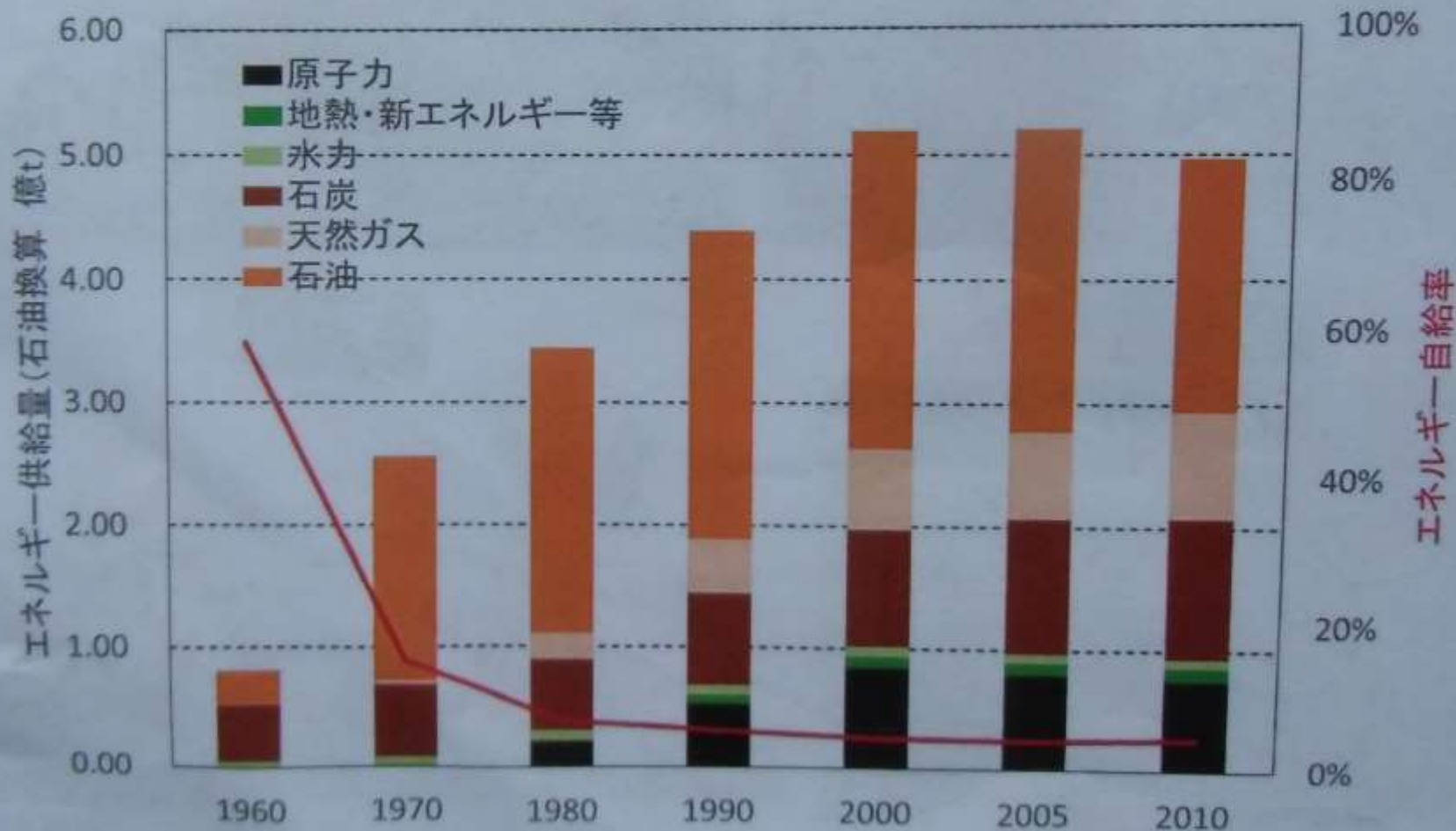


排ガス
 SO_2 , NO_x ,
 CO_2

日本のエネルギー自給率

高度経済成長期に下落

- 国内産炭量はエネルギー転換（石炭→石油）の国策で激減、かつ輸入炭へ
- 1970年代のオイルショックで脱石油が志向され原発拡充へ





聴講する参加者

温室効果ガスのはたらきは「おつり」

- 太陽光は透し、地面からの赤外線を吸収する温室効果ガスを含む大気で地球を覆う。
- 太陽光が地表に与えるエネルギーは変わらないが、地面からの赤外線は大気に吸収される。
- 大気は暖められ、宇宙へ赤外線を出す。
- 地表には大気から戻ったエネルギー分だけエネルギーが戻り、大気がないときより合計にエネルギーが戻り、地表温度は15℃まで上がる。



現在の地球温暖化

おつりが少し増えること

- 温室効果とは、地球が温室のように暖められる効果(現象)のことです。
- 温室効果ガスには”二酸化炭素・水蒸気・オゾン”などの気体が挙げられる。
- 温室効果ガスのはたらきはこのおつりが少し増えること…説明する山形先生

人為的気候変動を抑止するための 自然エネルギー利用

再生可能エネルギーの活用は、温室効果ガスの削減に大きく貢献します。自然エネルギーは、環境に優しく、持続可能なエネルギーです。政府は、再生可能エネルギーの普及を促進するための政策を実施しています。

- ① 公害（大気汚染）
- ② 地球環境問題（地球温暖化）

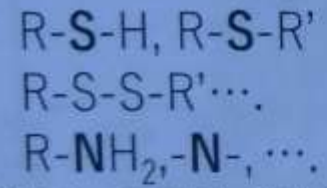


大気汚染をなくするための対策・解りやすい説明

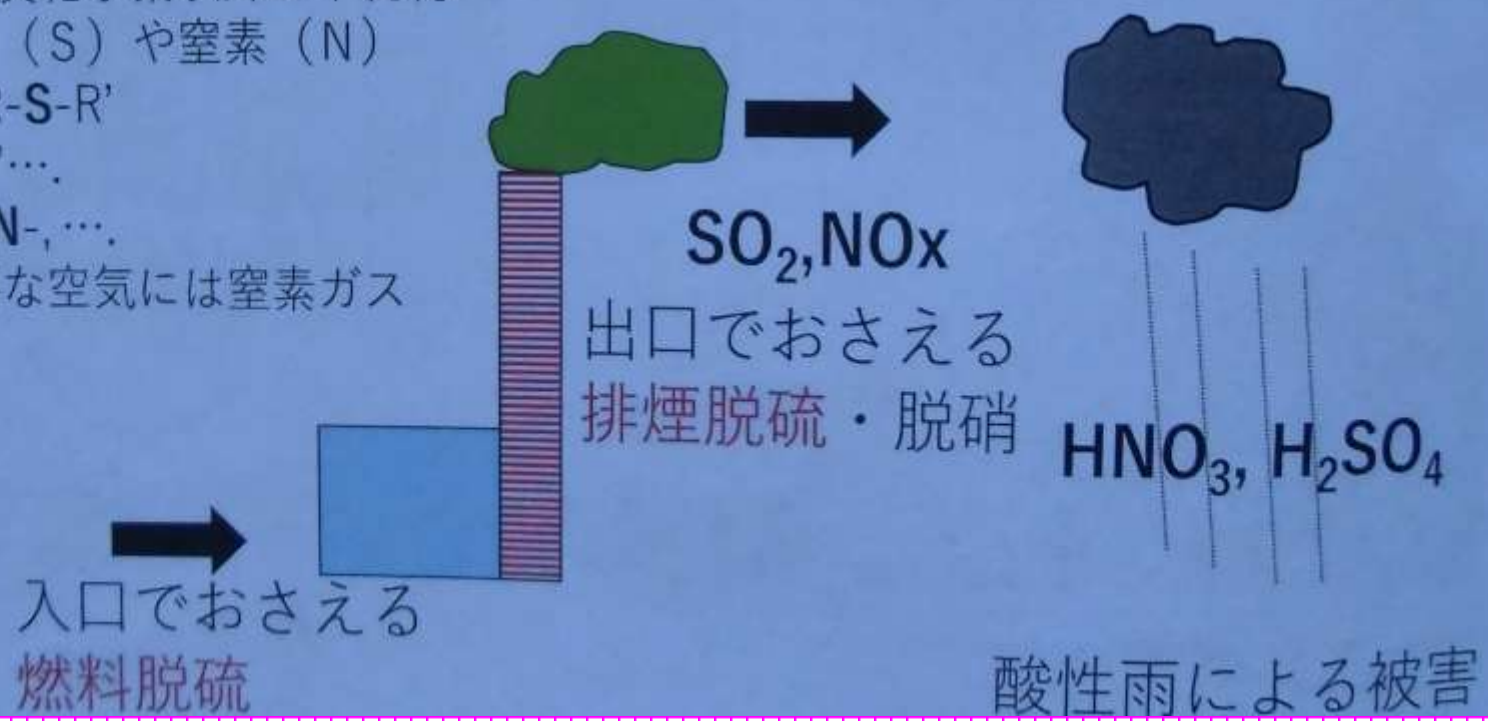
基本は燃焼ガスを大気に出さないこと (入口と出口)

- 原因物質は、燃料中のS (硫黄) とN (窒素)
- 空気中の N_2 も高温で $NO_x (NO+NO_2)$ に

燃料の石炭や石油には
燃料本体の炭化水素以外に不純物
として硫黄 (S) や窒素 (N)



燃焼に必要な空気には窒素ガス
 N_2



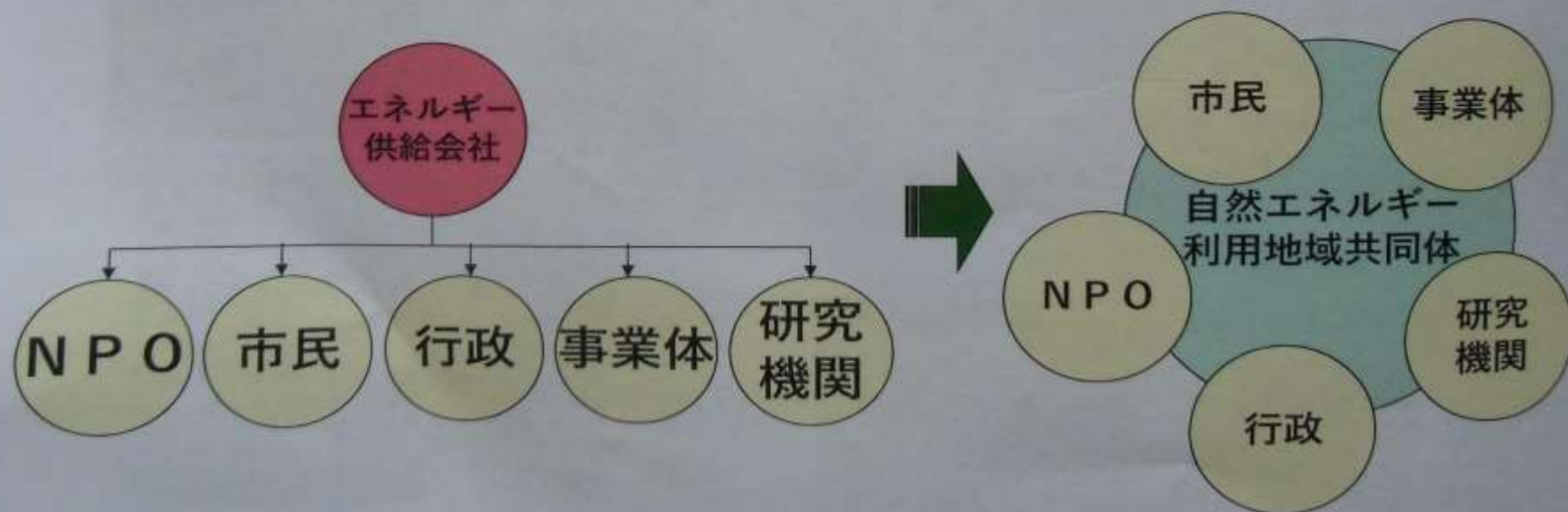
大気汚染をなくするための対策スライド



真剣に聴く参加者

「地域の、地域による、地域のための」自然エネルギー

- 地域にある自然エネルギーを（＝地域の）
 - 地域の住民が自分たちの手で（＝地域による）
 - 地域住民が使うために（＝地域のための）
- 開発することがキーポイント



地域の自然エネルギーで地域経済が元気になる！

雪や氷を長期間保存し、夏などにその冷たさ^①を利用する。北海道は、雪氷冷熱資源の宝庫で、その利用は現在実用段階となつていきます



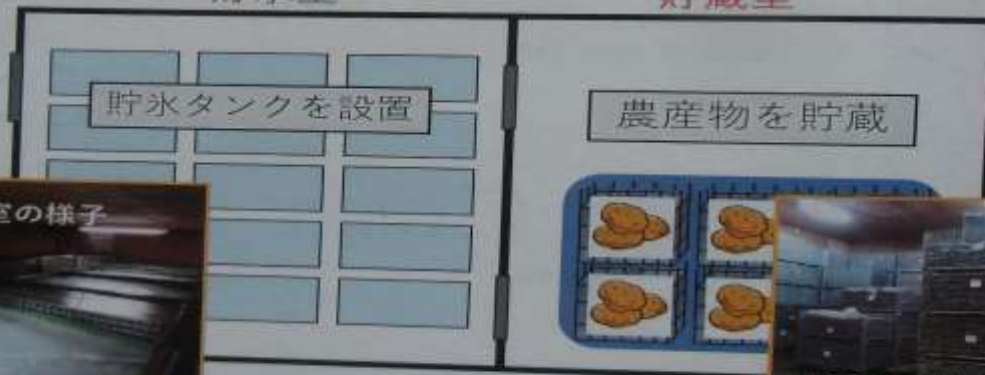
冬の寒さを夏に利用（雪氷冷熱）

除雪した雪を用いるものもあるが、空気を動かし水槽で氷を作り利用すれば少しの動力で済む

自然氷を利用したアイスシェルター型農産物貯蔵庫

貯氷室

貯蔵室

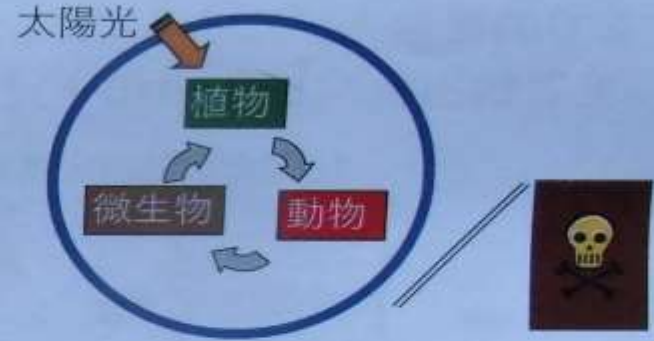


「アイスシェルター型農産物貯蔵庫の貯氷室内における3年間の製氷記録」
木村・長澤（帯畜大）NERAHo研究会2015/6@北大工

放射性廃棄物は物質循環からの隔離が必要

生物の設計図を破壊するため何万年にも渡って隔離

- ・ 原発事故が起きなくても日々発生する放射性廃棄物を長年管理し続けなければならない。
- ・ 電気という便益を私たちの世代だけが利用し、そのツケを子孫に負わせるのは世代間の公平性を著しく損なう「倫理的な問題」である。

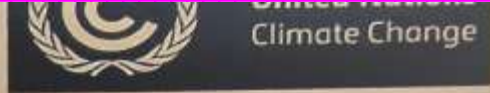


作西匠：いよいよ、ドイツも原発廃止から完全決断するようです。

（漫画ゴミック「廃棄物」2000.8）

二酸化炭素を出さない原子力発電の稼働率を上げることが含まれているが、放射性廃棄物の処分方法が解決しない中での稼働は将来世代への負の遺産でもある……

対策のための気候変動枠組条約



1992年国連総会採択・地球サミット155カ国署名、1994年3月発効

1992年6月ブラジル・リオデジャネイロで開催された環境と開発に関する国際連合会議（UNCED）で締結された地球温暖化問題に関する国際的な枠組みを設定した環境条約。1994年3月21日発効

パリ協定まで

京都議定書 COP3(1997)

項目	内容
・ 目標期間	2008～2012年
・ 削減率	締約国全体で5% (Jpn 6%, USA 7%, EU 8%..)
・ 対象ガス	CO ₂ , CH ₄ , N ₂ O, HFC, PFC, SF ₆
・ 基準年	1990(HFC, PFC, SF ₆ 1995)
・ 吸収源	1990以降の植林・伐採算定
・ 先進国同士、途上国との共同事業承認	
・ 排出権取引	先進国間の譲渡・獲得可

COP15(2009、デンマーク・コペンハーゲン)「我々は、世界全体の気温の上昇が摂氏2度より下にとどまるべきであるとの科学的見解を認識し、衡平の原則に基づき、かつ、持続可能な開発の文脈において、気候変動に対処するための長期的協力の行動を強化する。」、
COP21(2015)「パリ協定」採択

- ・ 世界共通の気温上昇に対する長期目標 **2°C**できれば**1.5°C**
- ・ すべての国が目標を5年毎に提出・更新、実施状況を報告

世界全体で産業革命以来の気温上昇を1.5度に抑えるべきとの激しい議論がされました。

「地球というのは人間だけのものではないぞ」 先住民族共通の理念

「ウレシパモシリ」 1992国連先住民族会議
北海道アイヌ協会理事長野村義一氏演説



- ・ アイヌ語で大地のことを「ウレシパモシリ」と呼ぶことがあります。これは、「万物が互いに互いを育てあう大地」という意味です。冷戦が終わり、新しい国際秩序が模索されている時代に、先住民族と非先住民族の間の「新しいパートナーシップ」は、時代の要請に応え、国際社会に大いに貢献することでしょう。この人類の希望に満ちた未来をより一層豊かにすることこそ私たち先住民族の願いであることを申し上げて、私の演説を終わりたいと思います。(http://www.ainu-assn.or.jp/about08.html)
- ・ この地球の大地と言うのは、ウレシパモシリと言って、万物がお互いに育て合いをしている大地なんだよ。だから地球というのは人間だけのものではないぞ、と。・・・ところが、先進国の、文明人が聞いたら、あの野郎何を言っているんだろうなと思っておったろうけれども、世界の先住民の代表の人は感激してしまっただんですね。この言葉というのは世界の先住民の共通した一つの理念なんです。(野村義一、「今なぜアイヌ新法なのか」、アイヌ民族についての連続講座、及川隆／北教組教育政策調査会研究室編、1993)

北海道の先住民族であるアイヌ民族の自然への考え方や生活様式が大いに参考になることを知り、大変興味深くかつ考えさせられました。



質問する参加者



質問に解りやすく答える山形先生



12時定刻に終了致しました